

徳島県科学技術県民会議

「徳島県科学技術憲章（仮称）」 （PR版）

はじめに

これまでわたしたちの暮らしを支えてきた「科学技術」は、これから、わたしたちが対応しなければならない「人口減少」や、「災害への備え」をはじめとするさまざまな問題を解決していくためのとても大事な力となるものです。そして、わたしたちの住むこの徳島は、新たなことに積極的に取り組んでいこうとする「進取の気質」に富んだ県民性を発揮し、また、「逆境（ピンチ）」を、それを克服するための「好機（チャンス）」になるとの姿勢で、科学技術を発展させ、大きな成果を挙げてきています。

今こそ、これまで育んできた徳島の「強み」となる科学技術の力を最大限に活用して、本県を取り巻く課題の解決を図り、徳島の未来を築いていく必要があります。そのためには、「産・学・民・官」（※1）それぞれが自分たちの役割をしっかりと果たすとともに、一体となって科学技術を充実させ、また、新たな技術開発につなげる「県民総ぐるみ」による取組みが必要とされています。

こうした取組み内容の方向性を示すものとして、このたび、本憲章を制定いたしました。

（※1）「産」産業界・「学」教育・研究機関・「民」県民・「官」行政

基本理念

- （1）科学技術をすべての人々に身近な存在となる「開かれた科学技術」を目指すこと
- （2）未来を築く「科学技術者」の育成に取り組むこと
- （3）産・学・民・官の持つ力を結集し、新たな技術の開発を目指すこと
- （4）本県ならではの科学技術を展開することで、地域が抱える問題を解決すること
- （5）科学技術が正しく利用されるような社会づくりに取り組むこと

目指すべき針路

「進取の気質」を発揮した「徳島発」の時代をリードする科学技術の展開

- ・ 「阿波藍」の時代から受け継ぐ「ものづくり」の伝統を基礎とした「科学技術」の力を、未来へと発展させていくため、新たな技術の開発に果敢に取り組み、「徳島ならではの」科学技術を生み、育てていきます。

「ピンチをチャンスに」変えるイノベーションの創出

- ・ 本県はこれまで、科学技術の力を活用し、ピンチをチャンスに変えてきました。
 - （1）「糖尿病死亡率ワーストワン」の脱却に向けた取組みから、糖尿病についての、世界レベルの「研究開発臨床拠点」を構築
 - （2）地デジへの移行に伴う県外波の受信対策として、光ファイバ網の全県整備による「全国屈指のブロードバンド環境」の整備

等々

- ・ 今後も、南海トラフの巨大地震を迎え撃つための、科学技術による対策や過疎地の地域活性化にも有効な農林水産業分野における技術開発など、危機管理や少子高齢化、過疎化といった「ピンチ」を「チャンス」と捉え、「課題解決」型の「イノベーション」（※2）を創出します。

（※2）これまでとは異なる手法に対する「気づき」により、新たなものを創造すること

役割分担

「産学民官」が一体となって「県民総ぐるみ」の科学技術を推進



産業界

- 科学技術の活用と、新たな技術の開発により、社会・経済の発展・向上に寄与します



教育・研究機関

- 子どもからお年寄りまで、科学技術を正しく理解・活用できる社会づくりに貢献します
- 科学技術の未来を切り拓く確かな人材を育成します



県民

- 科学技術を、子どもの頃から身近な存在と感じ、地域の様々な課題解決のために、積極的に活用します



行政

- 「産業界」、「教育・研究機関」との連携を図り、地域の課題に対する研究開発を行います
- 科学技術の普及啓発を行います

推進体制

<徳島県科学技術県民会議>

- ・総合的な施策の方向性について検討するため、産学民官による「県民会議」を設置
- ・下部組織として、「未来創造」、「工業・エネルギー」、「健康・医療」、「食料・バイオ」の4つの「部会」を設置

<徳島県科学技術推進本部>

- ・県の施策を統括し、各部局の効果的な連携を図るため「推進本部」を設置

普及啓発

<とくしま科学技術月間の制定>

○趣旨

「とくしま科学技術月間」(*Tokushima Science & Technology Promotion Month*)を制定し、科学技術関連の啓発行事を集中的に開催

○期間

10月(「とくしま科学技術の日(10月31日)」を含む1ヶ月)

と(10)くしまサイ(31)エンス

<優れた科学技術開発等への顕彰制度の創設>

科学技術に関するすばらしい成果を収めた者を顕彰